

仁徳天皇 百舌鳥耳原中陵飛地ほ号コンクリート擁壁設置その他 整備工事に伴う立会調査

仁徳天皇百舌鳥耳原中陵飛地ほ号は大阪府堺市南丸保園に所在する。本飛地は「菰山塚古墳」、「菰山古墳」とも呼ばれ、現状では不整形であるが、帆立貝形あるいは前方後円形とする意見もある。

今回の調査は隣接する市道側に陵墓地内の土砂が流出するのを防ぐために擁壁を設置するためのもので、古市陵墓監区事務所職員が立会調査をおこなった⁽¹⁾。

調査箇所は市道に隣接する約27mの部分で(第43図)、調査室職員の指示のもと、その一部の階段設置箇所について図化することとした(第44図)。土層は4層に大別でき、Ⅰ層は表土層、Ⅱ層はガラ混じりの客土(茶褐色砂質土)、Ⅲ層は古墳盛土(黄灰褐色粘質土)、Ⅳ層は地山(上：黄褐色粘質土、下：黄灰色粘質土)と考えられる。Ⅱ層からは埴輪片などが多数出土したが、原位置を保つものはなかった。以上のことから、調査箇所において墳丘面はすでに削平されており、盛土を一部に残すのみで葺石や埴輪列などの古墳の外表施設にかかわるような遺構はすでに失われていることが確認された。

これらの結果を踏まえ、工事は当初予定していたコンクリート擁壁を周辺景観との関係も考慮して化粧型枠工に切り替えて施工した。

Ⅱ層より出土した遺物は埴輪、陶器など248点である。いずれも細片であるが、可能な限り図化につとめた(第45・46図)。また、この機会に当部所蔵の昭和44年採集品も図化することとした⁽²⁾(第47図)。

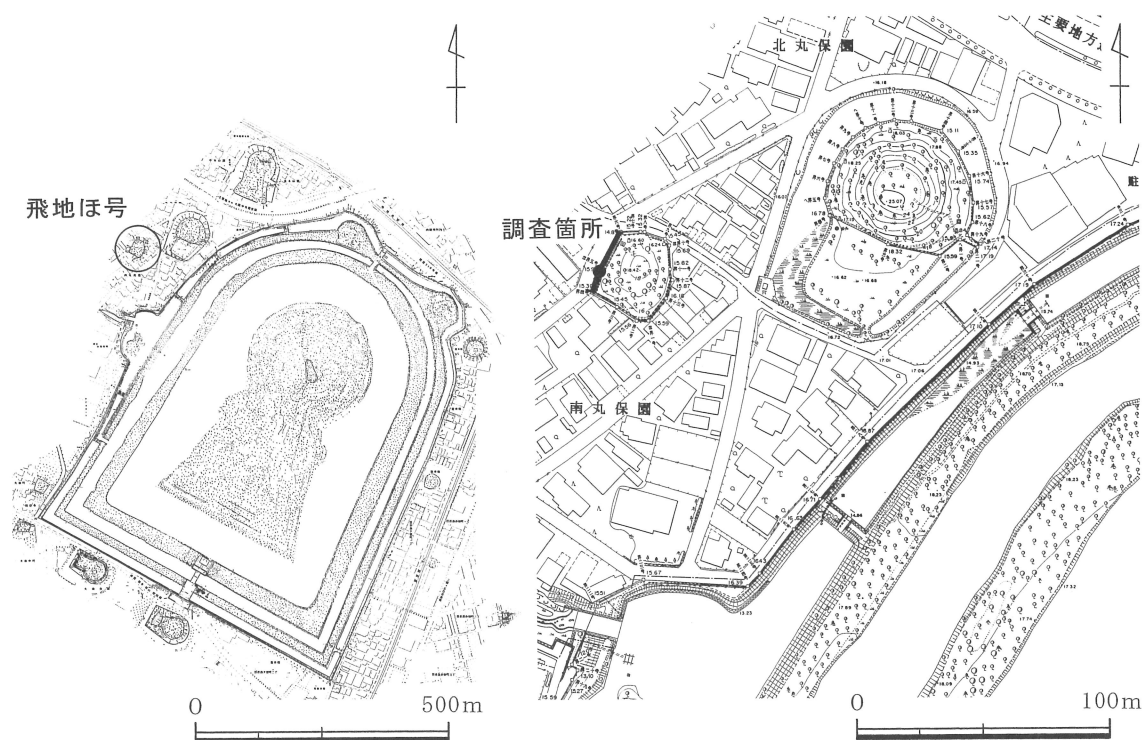
埴輪はすべて窖窯焼成によるもので、仕上がりは軟質のものが多く、色調は黄白色のものと黄橙色のものが多く、黄褐色のものが少量存在する。胎土に大きな差異はみられず、やや粗く、チャート、長石、石英などの鉱物を含む。仁徳天皇陵本体の埴輪と比べて小型で、器壁の薄いものの多いことが特徴である。

1～14は円筒埴輪、朝顔形埴輪の破片である。少数ではあるが13、14のようなやや大きめのものが存在する。器壁表面の摩滅しているものが多いが、外面調整としてタテハケの後にヨコハケをほどこしていることの確認できるものがある。6はB d種ヨコハケで、突帯剥離箇所では突帯設定の凹線が確認できる(写真1)。9は朝顔形埴輪の1次～2次口縁にかけての破片である。15は動物の鼻部の破片である。馬などの動物埴輪であろう。16の器種は不明で、片面に線刻がみられる。17は家形埴輪の破片となる可能性がある。18は片面に線刻や有段突帯がほどこされており、やや反り返っている(写真2)。2箇所ある有段突帯のうち1つは円形となるようなので、靱形埴輪となる可能性も考えられる。19は朝顔形埴輪の2次口縁部の破片であろうか。器壁が非常に薄くなっている。23は円形の透孔をもつ。26は蓋形埴輪の立飾部の破片である。

(加藤一郎)

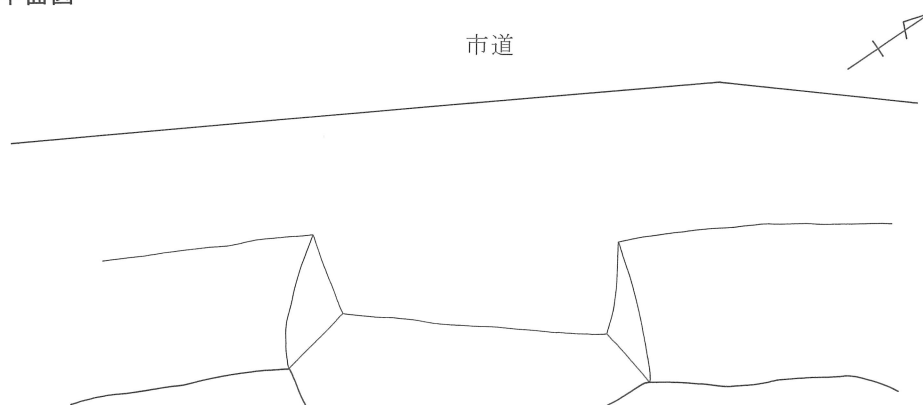
註

- (1) 調査中、堺市教育委員会の十河良和氏、石田修氏が来訪され、ご教示賜った。
- (2) 26以外は平成6年に当部が発行した出土品展示目録『埴輪Ⅱ』に掲載されている。

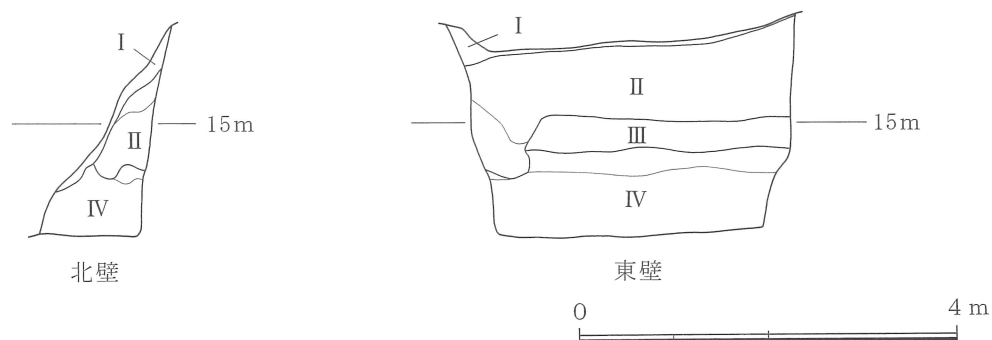


第43図 百舌鳥耳原中陵飛地ほ号 位置図 (1/15000) および調査箇所位置図 (1/3000)

1 平面図



2 断面図



第44図 百舌鳥耳原中陵飛地ほ号 調査箇所平面図および断面図 (1/80)

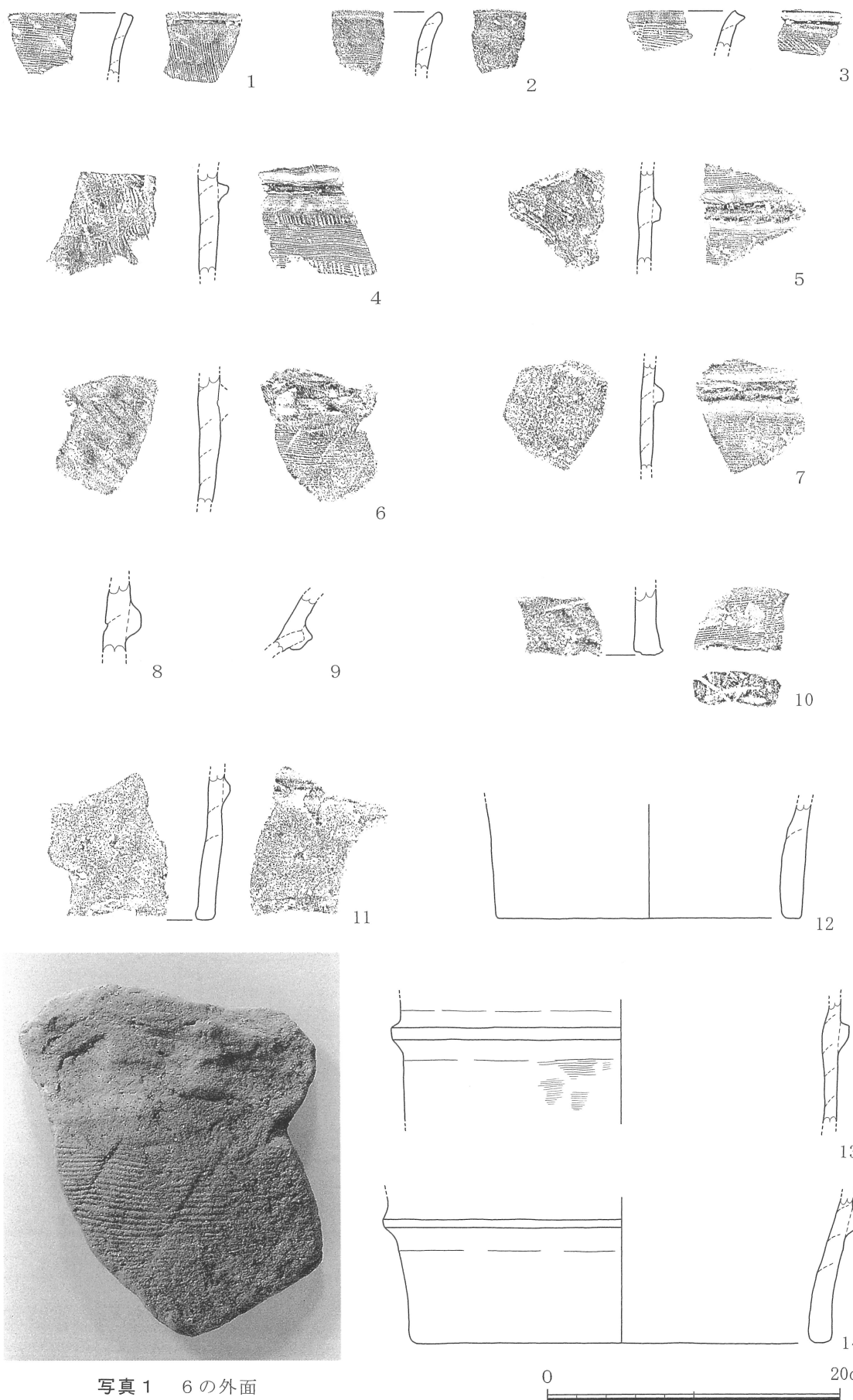
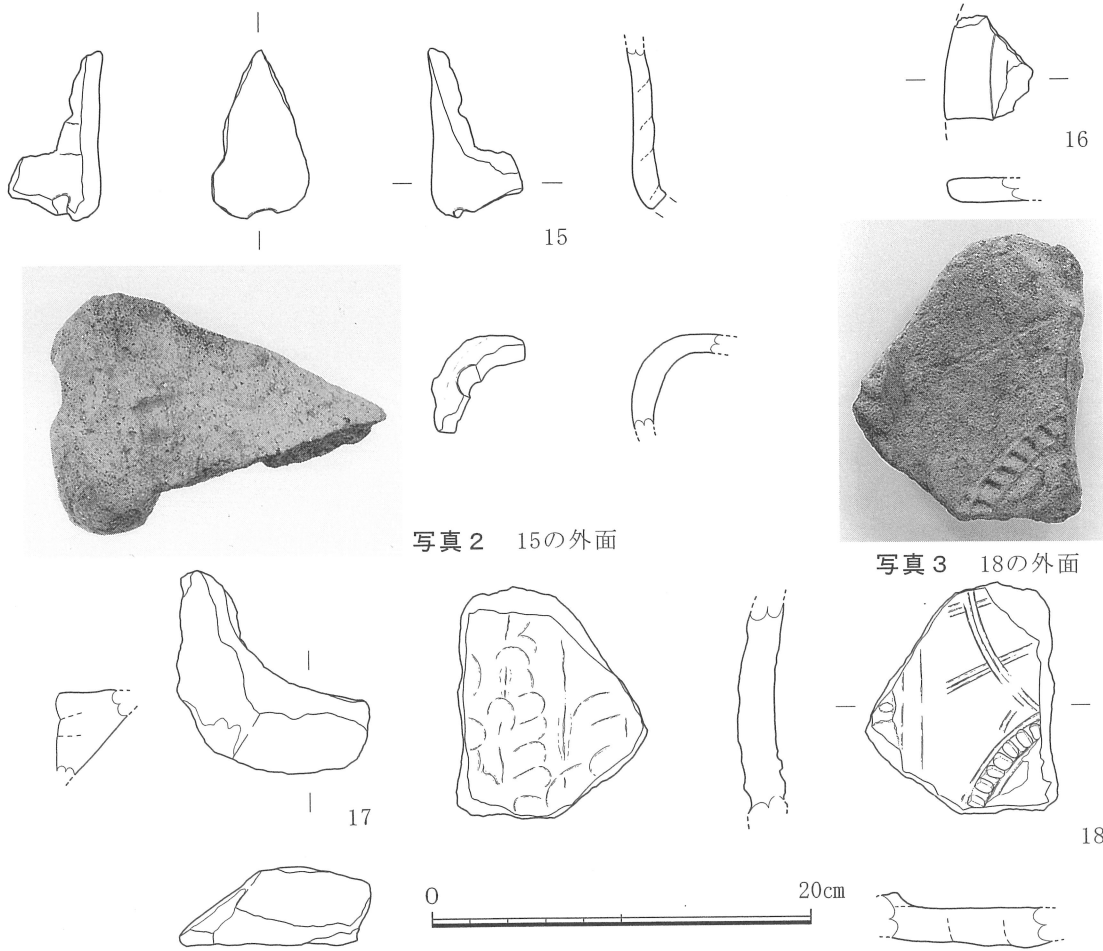
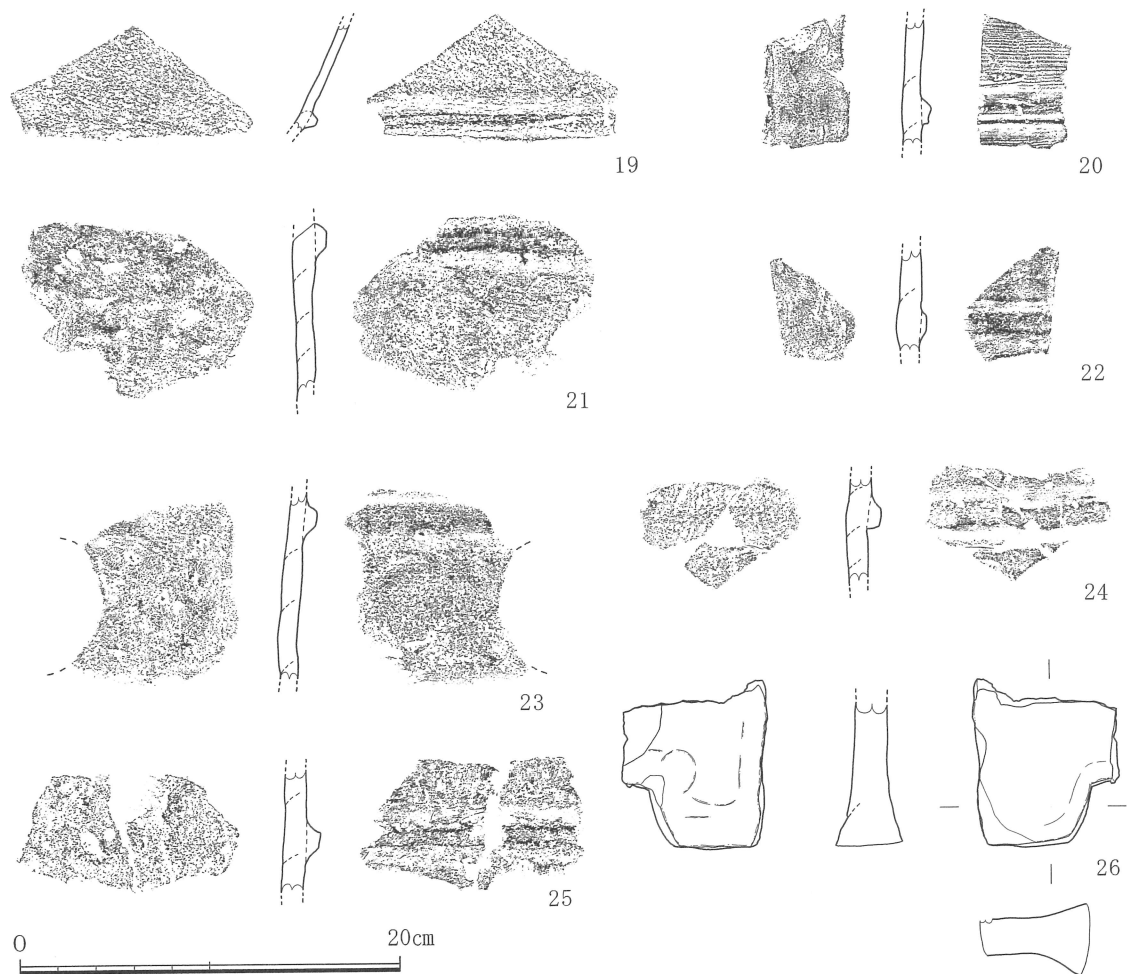


写真1 6の外表面

第45図 百舌鳥耳原中陵飛地ほ号 出土品実測図 (1) 円筒埴輪・朝顔形埴輪 (1/4)



第46図 百舌鳥耳原中陵飛地ほ号 出土品実測図(2) 形象埴輪(1/4)



第47図 百舌鳥耳原中陵飛地ほ号 昭和44年採集品実測図(1/4)

